

生涯現役をめざして

できるところから
はじめました

238

2021年の出生児数が81万1604人と統計開始以来最少となりたことから、少子化の加速が社会問題となっていますが、同時に晚婚化や晚産化も進んでおり、子どもを出産する際の母親の平均年齢も上昇しています。

こうした状況により、不妊症のカツプルの増加や妊娠時の母体リスクや出生児の染色体異常が増加することが知られています。女性における卵子の数は思春期から生殖適齢期に

す。こうした状況の場合は加齢により精巣機能が低下するとともに精子DNAの損傷も増加する

ことが明らかとなつてきました。こうした理由から、不妊症のカツプルの頻度は20代前半では5%以下

で、2022年4月より保険診療の適用となりました。

今まで不妊治療を特殊な医療として躊躇していた人や経済的な理由で諦めていたカツプルにとっては福音となります

一部の治療は保険診療として認められることです。

飯田市の不妊治療についてのものもあるため治療や助成に関することは、まずお早めにクリニックや自治体の窓口で相談されることをお薦め

は30～50万個程存在しますが、37歳くらいまでに2万個程、閉経時期の51歳までには1000個程度にまで減少します。また、加齢による異常な受精卵の割合も上昇します。男

であるのに対し、20代後半でおよそ9卵（胚）を子宮内に戻す（胚移植）方法

は生殖補助医療（ART）と呼ばれています。

生産補助医療を受けるカツプル数は年々増加しており、日本は世界の中で最

40歳以上43歳未満3

%以上となると考えられています。また、不妊症に対する治療は、排卵のタイミング

ニック 西澤春紀

西澤産婦人科クリニックは、飯田市下伊那地域で唯一、不妊治療を行っている。西澤産婦人科医療機関では、不育症治療を担当している。西澤産婦人科医療機関では、不育症治療は複数回や長期にわたる通院が必要となり、身近に通える医療機関があることは心強いことです。

飯田市の不妊治療に対する助成や相談は、保健センターで行っています。お気軽にクリニックや自治体の窓口で相談ください。（飯田市役所保健課 永田）